

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese di Kyoto

現地語学学校紹介： シエナ

* ダンテ・アリギエーリ協会 シエナ校 *

金子 玲 (同校スタッフ)

●イタリア語教育揺籃の地シエナ

シエナは知る人ぞ知るイタリア語教育揺籃の町。16世紀、他の町に先駆けて本格的なイタリア語教育機関がシエナの地に設立されました。以来その伝統はたゆむことなく受け継がれています。ダンテ・アリギエーリ協会シエナ校の創立は1979年。質の高いイタリア語教育が認められ、欧米各国の大学からは海外留学提携校として選ばれています。さまざまな留学ニーズに応えられるよう、伝統ある語学コースのほか、本格的料理コース、インターンシップ・プログラム、ヴァカンス型留学プログラムなど、幅広いコースが用意されています。



【シエナの中心 カンポ広場】

●学校は世界遺産の一部！！

「トスカーナの宝石」とも呼ばれるゴシック建築の美しいシエナ。旧市街全体がユネスコの世界遺産に登録され、おとぎ話のような町並みで有名です。その起源は古く中世の都市国家に遡ります。

中世美術発祥の地と呼ばれるだけでなく欧州初の銀行が誕生した地でもあり、ヨーロッパの文化的発展に大きく貢献しました。現在も町の規模は大きすぎず小さすぎずの「ヒューマン・サイズ」で、人々の生活はととも豊かです。治安も驚くほど良くイタリア屈指の住環境を誇っています。国立絵画美術館、キジャーナ音楽院、国立大学、諸研究所など、町が擁する多くの文化施設や教育研究機関には世界中から文化人が集まり、シエナには国際色豊かな調和が満ちています。ダンテ・アリギエーリ協会シエナ校はその旧市街の中心に位置し、18世紀建造の校舎でたくさんの留学生が学んでいます。校内には語学コースや文化コースが開講される教室、最新設備の整った料理コース専用の調理室、学生ラウンジ、自習室、テラス、図書館、PCコーナーなど、いずれも快適で充実した留学生活を送れるように配慮されています。

●伝統の地で国際感覚を身につける

450年以上も前からイタリア語教育が行われていたシエナ。伝統の地には世界中からさまざまな人がさまざまな目的でイタリア語を学びにやってきます。その中でも当校で学ぶ留学生のプロフィールはバラエティ豊かです。大学生、音楽家、主婦、医者、文学者、ジャーナリスト、料理人、ソムリエ、商社マン、スポーツ選手、定年退職者、ミス・ユニバースなど、多様な経験を持つ人々が学びにやってくるため、留学によって「イタリア」を学ぶことはもちろん、国際人として多文化的な視点

を養う機会にも恵まれます。



【レッスンの様子】

●イタリア語で世界を広げる

私たちの認識がことばと深く結びついているように、「イタリア」を知ることと「イタリア語」を学ぶことの間には切っても切れない関係があります。

もっとイタリア語をしゃべりたい！オペラを楽しみたい！イタリア人シェフに弟子入りしたい！イタリアで働きたい！文法大好き！イタリア語を学ぶ理由や目的は人それぞれ多岐に渡りますが、ことばを学ぶ素晴らしさに触れることに変わりはありません。当校ではそれぞれの目的に適ったイタリア語の習得ができるよう幅広いコースを用意しています。体系的に学べる長期コース(3ヶ月～1年)や自由に期間を選べるグループ・コースのほか、3時間単位の個人レッスンなどもあるので短期滞在者も受講できるようになっています。ベーシックなグループ・コースはイタリア語のレベルによってクラスが編成されます(まったくの初心者から上級まで、欧州基準の6レベル)。1クラスは平均8名の少人数制なので、文法はもちろん会話などのコミュニケーション能力を高めるのにも最高の環境です。また授業ではイタリアの文化や生活スタイルなどをテーマに取り上げ、ことばだけでなくイタリアという国についても多角的に学んでいきます。

●料理コース

シエナは豊かな食文化を誇る町。トスカーナ州を代表するジビエ料理のほか、チーズ、ワイン、オリーブ・オイルなどの産地としても有名です。郊外にはキャンティやモンタルチーノなどイタリアを代表するワインの産地が広がり、旧市街にはイタ

リア中で2軒しかない国立エノテカもあります。

ダンテの料理コースはこのような理想的な環境の中で開講されます。いずれもシェフの指導のもと実際にフル・コースを調理しながら学んでいくカリキュラムなので、コースを通してスキル・アップすることはもちろん、イタリア料理を作る喜びを体験することができます。1日だけの体験コース、1～12週間のテーマ別コース、またレストランで修行できるインターンシップを含む長期コースなどがあるので、料理経験や目的に応じてコースを選ぶことができます。

中でも長期コースは、学生の希望する先でインターン経験をすることが可能なのでとても人気があります(当校より学生の希望する先へ直接受け入れ交渉をします)。現在までに星つきレストラン、パティスリー、ピッツェリア、トリッパ専門店、ブランド・ショップ直営レストランなど、さまざま場所でインターンシップが行われています。また、当プログラムに参加した学生はイタリアのレストランと雇用契約を結んだり本国でレストラン開業したりするほか、専門書を出版したり料理教室を開催したりと、その後さまざまな活躍をしています。



【料理コースで手打ちパスタ】

●放課後を楽しむ

より充実した留学生活を送れるよう、ダンテ・アリギエーリ協会シエナ校では豊富な課外活動プログラムを企画しています。クラスの外で開催されるアクティビティは、生きたイタリアに触れ、新しい友達に出会い、イタリア語を実践で使うことができる貴重な機会です。それぞれのアクティビティには必ず引率の教師がつくので一人でも安心して参加できます。入学初日のオリエンテーションをはじめ、美術館見学、ワイン・テイasting、映

画鑑賞会、文化セミナー、パリオ祭見学、食事会、パブでのパーティー、週末のエクスカーションやワイナリー見学などさまざまなプログラムが生まれ、ほとんどのものが参加費無料です(有料の場合も交通費などの実費のみの負担となります)。

また、週に一度開催される日本人留学生を対象とした補講は、無料ながらも一線を画したダンテ品質です。当校で代々この補講を担当しているのはイタリア語教育についての専門知識を身につけた日本人講師なので、一般的な文法や日常会話についてだけでなくイタリア語の歴史や言語学など、掘り下げたテーマについても対応することができます。もちろん勉強面にとどまらず、滞在許可証をはじめとするイタリア生活全般に関する相談にもなっているため、困った時や日本語が話したくなかった時など、それぞれの必要に応じて気軽に参加することができます。

●安心の住居手配サポート

充実した留学生活を送るために滞在先の住居選択はとても重要です。当校では学生の希望を最優先して宿舎手配を行っているため、「学校から徒歩 20 分以内」、「日当たりのいい部屋」、「郊外の静かな住居」など、具体的なリクエストにも可能な限り応じています。滞在先のタイプには学生アパートやイタリア人家庭でのホームステイのほか、レジデンス(滞在型ホテル)や郊外のヴィラなどたくさんの選択肢があるので、「自炊したいのでホームステイ以外の滞在先を希望」というように、好みに合った宿舎の手配を依頼することができます。また、すべての宿舎は当校と直接提携を結んでいるため、万が一問題があった場合でも学校がすぐに介入できるので安心です。

●ヴァカンス型の留学

イタリアでゆっくり休暇を楽しみたいけれど、ちょっぴりことばの勉強もしておきたい。そんな要望に応えるべく新開設されたのが、南イタリアのイ

スキア島で開講される1週間単位のプログラムです。自然溢れる風光明媚の島でホテルやレジデンスに滞在しながらイタリア語を勉強できる贅沢なプログラムです。市街散策やワイン・テイastingなどもあり、ツアー旅行とは違った視点からイタリアを訪れたい場合にもぴったりのコースです。そのほか、トスカナ州のヴィテルボの町で開講されるホームステイ・プログラムもゆったりと過ごすヴァカンス型の留学に適しています。



【スキア島】

●かけがえのない留学実現のために

外国に住むということは毎日が冒険のようなもので新しい発見と驚きの連続です。ペンネの箱の中から別の形のパスタが出てきたり、昨日は自動販売機からお釣りが出なかったのに今日は余計に出てきたり…。楽しいことばかりでなく、時には不安になったり困難にぶつかったりすることもあるかもしれません。海外留学は目的を達する手段でもあるとともに、新しい自分に出会える貴重な機会でもあります。ダンテ・アリギエーリ協会シエナ校は、一人ひとりのイタリア留学がかけがえのない時間となるよう、そのお手伝いができればと思います。

(ダンテ・アリギエーリ協会 シエナ校スタッフ)

イタリア発月刊日本語新聞

COMEVA
Pubblicazione mensile distribuita in Italia e in Giappone

イタリア在住日本人と日本人観光客のための情報誌

編集・発行 NIPPON CLUB SNC
Via Torino, 95 - 00184 Roma, Italy
Tel. & Fax : (06) 4743. 212
E-mail : comeva@nipponclub.it
URL : www.nipponclub.it

お問い合わせ等はNIPPON CLUB SNC宛てにお送り下さい。

イタリア通信

第1回『うるわしのカラブリア』 “*Calabria bella*”

深草 真由子

‘Nduja(ンドゥーイヤ)、’Ndrangheta(ンドランゲタ)・・・通常「ン」から始まる単語は日本語にもイタリア語にもないから、どことなくエキゾチックな響きがするこれらの単語の由来はカラブリア方言である。年間100万人以上もの日本人観光客がイタリアを訪れるそうだが、その中でカラブリア州まで足を延ばす人はどのくらいいるのだろうか。ナポリやアマルフィ海岸、シチリア、マテラにアルペロベッコ・・・南イタリアにも注目が集まるようになった昨今でも、カラブリアを観光コースに含めている旅行ツアーなど未だ見つかったことはない。残念なことではあるけれど、それも仕方がない・・・とも思う。カラブリアには日本人の大好きなユネスコの世界遺産はゼロ、これといった目立った観光スポットはなく、交通の便も決して良くはない。夏は海水浴、冬はシーラ高原でスキーが楽しめるが、はるばる日本からやって来てまでイタリアでするほどのことではないと考える人も多いだろう。一ヶ月間の語学研修のために初めて滞在したイタリアの町フィレンツェの印象が強くて、「イタリア」と言えば中世、ルネサンスの美術作品や建造物で頭がいっぱいになる筆者にとっては、正直なところこれまでカラブリアなど眼中になかった。だがせっかくここまで来たからには何かを探してみよう。普通の日本人観光客を惹きつけるようなもの・・・それについては半ば諦めつつ、とりあえずマニアが喜ぶような何かを求めてカラブリアを巡ってみよう。きっと何か面白い発見があるに違いない。

イタリア半島を長靴に見立てると足の甲からつま先の部分に位置するカラブリア州はティレニア海とイオニア海に囲まれ、内陸には丘陵地帯と高原が広がっている。ローマとシチリア間を列車でティレニア海に沿って移動すれば、カラブリアの一部を見ることになる。色とりどりのビーチパラソルの並ぶ砂浜が続いたかと思えば、ごつごつし

た大きな岩が壁を作っていたり、列車の反対側の窓を見上げれば、山にへばりつくようにして階段状に建てられた家々があったり・・・ミラノからユーロスターをローマで乗り換えてさらにずっと南下してみても、一番美しい車窓の風景に出会えるのはカラブリアだと思う。(少なくとも筆者にとっては)得てして不愉快なものになりがちなイタリア(特に南イタリア!)の鉄道の旅。だがカラブリアでは窓の外の眺めに苛立った気分が癒されることが何度もあった。



【カラブリアの古都コゼンツァのメインストリート】

歴史上カラブリアが最初に脚光を浴びるのは古代ギリシア時代だ。紀元前八世紀から七世紀ころ、本国の人口超過と交易に重要なメッシーナ海峡を押さえる目的でイタリア半島に移住したギリシア人たちは、カラブリアに次々と植民都市を建設した。そして経済的に豊かになっただけではなく、文学や哲学の分野においても母国ギリシアを凌ぐほどの力をつけたので、彼らはこの土地を称えて Magna Grecia (Grande Grecia) という名前で呼ぶようになった。現在カラブリアの中心都市であるレッジョ・ディ・カラブリアやクロトーネは、Magna Grecia 時代に栄えた植民都市であり、当時から政治・経済の中心であった。絶えない都市間抗争と土着民族の反乱、ローマの強大化が

原因で Magna Grecia の時代は終焉を迎えるが、ギリシア人たちの繁栄の跡はカラブリア中に散在しているから、遺跡巡りをするのも面白そうだ。例えばクロトーネの神殿(Capo Colonna)やレツジョの古代の城壁などは見応えがありそうだし、各地にある考古学博物館には貴重な出土品が所蔵されている。筆者もこれから訪れてみる予定。



【コゼンツァの12世紀創建のドウオーモ】

ギリシア人の後、ナポリやシチリアの歴史と同様に、カラブリアはローマ、東ゴート族、ビザンツ、ノルマン、ホーエンシュタウフェン、アンジュー、アラゴン、ブルボンに支配される。シチリア王フェデリーコ二世はカラブリアのコゼンツァをパレルモ、ナポリに次ぐ重要な町と位置づけて、経済的にも文化的にもこの町を繁栄させた。コゼンツァのドウオーモはフェデリーコ二世時代に完成されたものである。この町はティレニア海から少し離れた内陸にあり、その小さなチェントロは小高い山に作られている。麓からチェントロが始まり、小さな商店や職人の工房の並ぶメインストリートに登っていくとドウオーモがある。その脇から見渡せる眺めは、トスカーナの丘を見ているような錯覚を覚える。さらに頂上まで登っていくと市庁舎や市立図書館のある広場に到着する。その中心には十六世紀の哲学者テレージオの像がある。ベルナルディーノ・テレージオはルネサンス思想に多大なる影響を与えた自然主義の創始者であり、歴史上もっとも著名なコゼンツァ人だ。彼がコゼンツァで参加していたアカデミーは、カラブリアがスペインの支配に入った後も、アカデミア・コゼンティーナとして南イタリアの中心的なアカデミーの一つとして存続する。このように、コゼンツァがどのような歴史を辿って来たのかを少し調べてみると、現在の状況がとても寂しく思われてしまう。北

イタリアの観光地とは違い、昔の趣のある建物や道路が朽ち果てるがままに放っておかれているのではないかと。多くの人々が利便性を求めて、モダンな生活のできる郊外へ移り住むことを選んだという。小さな昔からある店は看板だけで、常に閉まっている所も多い。しかし最近では、チェントロの空き家を大学の学生寮として再利用しようという動きがあるそうだ。町が再び活気を取り戻してくれれば・・・と願っている。

おそらくもっとも知られているカラブリアの言葉「ンドランゲタ」についてはここでは敢えて触れずにおくとして・・・冒頭で紹介した「ンドゥーイヤ」とは、今では瓶詰めにしてスーパーでも売られているカラブリアの食料品だ。トウガラシ入りのサラミの一種で、柔らかいのでパンに塗ってアンティパストの一品となったり、パスタのソースに加えられたりする。色は真っ赤で、口に入れてみると予想通り、舌がしびれるほど辛い。カラブリアと言えばトウガラシ。お土産屋さんには乾燥トウガラシや、トウガラシがデザインされた雑貨類が並ぶ。トウガラシを漬けこんだ辛いオリーブ・オイルは”olio santo”「聖なる油」と呼ばれ、炒め油として、あるいはタバスコのようにパスタの上にかけて利用される。



【コゼンツァを流れるプレゼント川】

日本における韓国料理のイメージが、イタリアにおけるカラブリア料理のそれと同じだ。実際、北部や中部ではトウガラシを使った刺激的な伝統料理は存在しないし、「辛いものなど食べたことがない」「試してみたけど食べられなかった」「食べたらお腹を下してしまう」という人も多い。辛いサラミをトッピングした”Diavola”という名前のピッツァはイタリア中どこにでもあるとはいえ、辛さを求めて注文した人には少々物足りないかもしれない。一方でカラブリアにはトマトソースそのものが辛いピッツァがある。パオラの海辺のレストランで初めて食べたピリ辛のピッツァは、筆者がこの数年間のイタリア生活で食べたピッツァの中でも三本の指に入るほどのおいしさであった。そしてカラブリアはジェラートのおいしいことでも知られている。さすがにトウガラシ味はまだ見たことはないが、フルーツとヨーグルト味の組み合わせが良い。普通のスーパーマーケットでも売られているピッツォ・カラブロのメーカーの”Tartufo”は、カラブリアを代表するアイスクリームである。そして少し奇妙な飲み物モカドリンク。これは炭酸のコーヒーで、単なる好奇心から飲んでみたが、意外とおいしいものであった。



【コゼンツァの新市街】

そしてなんと言ってもカラブリアの魅力は空が広々としていることだろうか。「ここは陸の孤島だ」という寂しさや不安感も吹っ飛んでいくような気がする。住めば都とはこのことか。

(元会館スタッフ)

… 会館 だ よ り …

イタリア語 無料体験レッスン

1月より開講の冬期イタリア語講座に向けて、体験レッスンを開催します。入門者向け。事前予約制。
定員：各回10名

● 梅田：大阪駅前第4ビル

1/ 7 (木) 19:00~20:30

1/10 (日) 13:00~14:30

1/10 (日) 15:00~16:30

● 四条烏丸：ウイングス京都

1/12 (火) 19:00~20:30

● 京都本校：日本イタリア京都會館

1/ 9 (土) 11:00~12:30

1/ 9 (土) 13:00~14:30

1/13 (水) 11:00~12:30

ポルトガル語無料体験講座

講師：当館ポルトガル語講師

1/7 (木) 19:00~20:30

会場：日本イタリア京都會館 本校

定員：20名

スペイン語無料体験講座

講師：当館スペイン語講師

1/13 (水) 15:00~16:30

会場：日本イタリア京都會館 本校

定員：20名



編集・発行 / (財) 日本イタリア京都會館

〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4

TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357

E-mail: centro@italiakaikan.jp

URL: <http://italiakaikan.jp/>